

会 議 録

1 会議名

平成29年度 第3回上越市立図書館協議会

2 議題等(全件公開)

- (1) 平成30年度予算及び事業計画について
- (2) その他

3 開催日時

平成30年3月27日(火) 午前10時30分から11時50分まで

4 開催場所

上越市立高田図書館1階 第1会議室

5 傍聴人の数

0人

6 出席した者(傍聴人を除く。)氏名(敬称略)

- ・委員：池嶋委員、上原委員、大越委員、小笠委員、河村委員、田中委員、藤巻委員、丸山委員
- ・事務局：社会教育課 関高田図書館長、小暮副館長、丸山係長、佐藤係長、平田直江津図書館副館長、内山係長、山本社会教育係長

7 発言の内容(要旨)

<上越市立図書館条例施行規則第20条2項の規定により小笠委員長が議長となる>

○平成30年度予算及び事業計画について

事務局 : 別紙資料1により概要説明

議長 : 図書管理電算化事業について、これは図書館システムの維持管理だが、どこの組織でもこの保守料というのは高額である。

関館長 : 図書館システムでは、端末が高田・直江津・頸城・浦川原にあり、そこを繋いで日常的に図書の登録や貸出、返却を行うほか、ホームページからの利用予約や本の検索などを総合的に行うシステムを構築し維持管理することで非常に多額の費用がかかる。29年2月から新たに5年契約に入ったのだが、ハードの保守については1年の保証があり、29年度は2月、3月の2か月分の経費で済んだのが30年度は12か月分かかるため、その分が増額となっている。

議 長 : 高田図書館管理運営費が対前年度比で約半額である。これは前年度にあった空調の工事がなくなったため、事業費自体は半額であるが、総体的には例年並みということによいか。

関館長 : そのとおりである。

丸山副委員長 : 読書普及・自主活動事業であるが、開館110周年記念事業を控えているのに予算が減らされているが。

小暮副館長 : 今年度直江津で実施した原画展にあたる事業が来年度はないため、その分が減っている。

丸山副委員長 : その分が110周年記念事業に回らなかったということか。

関館長 : 100周年の時はロビーで式典を行ったりしたが、今回の110周年では大々的にではなく、市民のみなさんから図書館の思い出を寄せていただき、展示するために必要な消耗品関係等の予算を計上したものである。

議 長 : 予算の概要「資料1」について、ほかにいかがか。
続けて「資料2」の事業計画について御意見・御質問をお願いします。

小暮副館長 : 110周年記念ということで、当館での考えをお示ししたところだが、これについては先月の定例教育委員会において、教育委員の方から「図書館協議会委員のみなさんからもアイデアを出していただいたらどうか」との声があり、是非お伺いしたいところである。

議 長 : それでは「資料3」の110周年記念事業も含めてお願いします。

藤巻委員 : AI音声ロボットを借用して110周年事業に使えないか。

小暮副館長 : 子どもたちは喜ぶと思うが、予算がないので、無料で貸してくれるところがあればいいが。

大越委員 : 公民館図書室で新刊の購入をお願いした時に「小説はだめ」と言われたという話を聞いた。公民館図書室にも新刊リストがあればリクエストしやすいし、相応の資料があれば予約もしやすいと思うが。

山本係長 : 「小説はだめ」とは言っていないはず。今年度、小説等の新刊本を買えないという誤った認識をしないようにメールを配信しているので、再度確認したい。

丸山係長 : 毎週、図書館4館分の新着情報を全公民館図書室にも流している。ただ、図書室の事務が公民館事務全体の中の一つであるということから、

全ての公民館図書室が同様の対応をしているわけではない。

丸山副委員長：ときどき「パピルス」や「上越タイムス」に新着図書の紹介があるが、ほんの一部である。例えば4月に新たに何十冊入れたといったような広報は図書館、分館、公民館で掲示なりの周知をしているのか。

丸山係長：紙媒体では、浦川原だけが合併前からの広報紙「図書館だより」の中で紹介をしている。図書館の新着情報はホームページの「新着資料」として掲載しているが、ホームページを閲覧しない方も当然いらっしゃるので、掲示による情報提供についても今後検討する必要はあると考えている。

議長：情報伝達のしかたは大事である。可能であれば次回の協議会でご提案いただきたい。実際、分館や公民館図書室へ行って、どういう状況なのか具体的に説明いただきながら計画を立てていくというのが一番わかりやすいと思う。上越市だけでなく他の市の図書館事業がどう行われているのか、私たちの目で確かめながら計画を立てていけたらいいのだが、これも予算が伴うことであり、いつか実現できればいいと思う。

大越委員：110周年記念事業に関してだが、110年前に図書館にあった本の展示というのはどうか。経費もかからず良いのでは。

丸山係長：図書館の前身である修道館が持っていた「榊原家文書」などの和書があるが、手に持って見ていただくことはできない。学芸員は現在、高田図書館に配置されておらず、司書が扱うのは難しい。現物資料を展示ケースに入れて監視員を配置して見ていただくにことになる。例えば「図書館こども祭」の時など期間限定であればできるかと思う。

議長：和書に限らず、明治41年の開館であるから、もしあれば、このような本が当時の新着本であったというような紹介もできるかもしれない。ちょうど夏目漱石、島崎藤村、田山花袋などが活躍していた時代でもあり、110年前の図書館の様子を写真だけではなく本も揃えて展示したらどうか。

高田図書館の思い出を書いてもらうのも面白いかも知れない。

田中委員：これまでの歴代の図書館長とか名物司書さんに当時の思い出を語ってもらってもいいのではないかと。質問コーナーを設けても良い。

- 議長 : 座談会とかフォーラムという形もある。
- 事業の中に、双方向性のあるというか、こちらから提供するだけではなく、お互いにやりとりができるようなアクティブな事業があるといい。もう一つは、読み聞かせやおはなし会などで、幼児、小学生と対象を示してあるが、例えば大人向けであるとか、お年を召した方向けであるとか、女性向け、母親向けであるとか、対象相手を考えた事業があってもいい。
- 内山係長 : 直江津図書館で一昨年、大人のおはなし会を開催したが、参加者数は少し寂しいものであった。ただ、今後も引き続き検討したいと思っている。
- 議長 : 1年の中で展開していく事業の企画・考え方は非常に大事なもので、図書館の活気も随分と違ってくるのではないかと思う。11月には県立図書館との共催で講演会が企画されているが、例えば私の大学（上教大）でも無料の出前講座がある。同様に図書館と大学が連携した企画が計画できるかもしれない。
- 小暮副館長 : 一昨年、出前講座を利用させていただき「言葉と人間関係」というタイトルで開催した。30人募集のところ39人にお集まりいただき、やはり図書館をご利用の方は意識が高いと感じた。また機会があれば、是非お願いしたい。
- 丸山副委員長 : 110周年記念事業を経費のかからない方法でやるとしたら、図書館で活動する団体を上手に利用するのも一手かと思う。事業に関連付けた中で110周年記念事業が意味のあるものにしていただければありがたい。
- 上原委員 : 何年前に、松尾芭蕉や江戸時代の女性の旅についての著作のある方を講師に直江津学びの交流館で開催された講演会に参加したが、大盛況だった。
- 丸山係長 : その講演会も県立図書館で選定した講師出前事業であった。
- 関館長 : 今回の事業計画の中に“県立図書館との共催”とあるが、まだ決定ではない。
- 上原委員 : こうした講演会には大人の方も大勢来られるので、県との共催に限らず是非お願いしたい。

大越委員 : 110年前というと、私たち（読み聞かせサークル ワンダーランド）
が作った紙芝居の主人公の機関車コッペルが誕生して107年であり、
図書館開館と同時期である。その頃にこの機関車が走ったという話も
できる。是非お使いいただきたい。

小暮副館長 : いただいた御意見を参考にさせていただき、進めていきたい。

○その他

大越委員 : 社会教育課の事業で、義務教育終了後の若者の支援体制を強化しよう
とする取組があるのだが、若者の居場所の一つに図書館を利用できな
いか。相談や生活を一体化した支援を行おうとするもので、本を貸す
だけでなく、図書館運営の一つとして考えてもらえればありがたい。
同じ社会教育課で連動できないか。

議長 : 図書館は以前からサードプレイス、すなわち自宅、学校、それに続く
3番目の重要な場所と言われている。これを有効に機能させていくこ
とかと思う。

関館長 : 社会教育課と連携し、考えていきたい。

8 問合せ先

教育委員会社会教育課高田図書館 TEL : 025-523-2603

E-mail : t-toshokan@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて参照ください。